

困難抱える生徒支援

都教委が計画案を発表

都教育委員会は、不登校経験者や家族の世話をするヤングケアラーら困難を抱える生徒の支援計画案を発表した。2025年度に不登校経験者らを受け入れる

定時制(3部制)の「チャレンジスクール」を立川地区に開校する支援策などを

盛りこんだ。チャレンジスクールは7校目。一方、計7校の夜間定時制課程で25年度入試以降に生徒募集を停止し、廃止する方針。

都教委によると、不登校経験者は増加傾向にあり、都立高では不登校生徒の6割超が定時制課程に在籍し

ている。日本語指導が必要な外国籍の都立高生徒も昨年度は733人と、10年間で倍増。ヤングケアラーへの対応など支援のニーズが多様化しているため「都立高校におけるチャレンジサポートプラン」案を策定した。

計画案では、26年度に都立深沢高校(世田谷区)を柔軟な教育課程や相談体制を整えた新たなタイプの学校へ改編。生徒が専門職らに相談できる「校内居場所カフェ」や仮想空間上の学習環境を用意したり、入学期の春期や土曜日に日本語講座を実施したりする。不登校経験のある生徒らの入試のあり方も検討する。

都立高の再編で、夜間定時制課程は25年度入試から立川(立川市)、26年度入試から小山台(品川区)、桜町(世田谷区)、大山(板橋区)、北豊島工科(同)、蔵前工科(台東区)、葛飾商業(葛飾区)の6校の生徒募集を停止する。

計画は25年度からの3年間。20日までパブリックコメント(意見公募)を実施する。

(奥野斐)